

平成30年11月26日(月)

老球の細道449号

3 連休のバスケットボール

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昔の爺と婆は毎日山に芝刈りと川に洗濯に行っていたようだが、私は平日は家にこもり休日はあちこちの体育館にバスケットボール講習会か試合観戦に行く。先週末は3連休でバスケットボールの指導の喜びとゲームの感動を味わった。

【南相馬市立小高中学校クリニック】23日(金)は小高中学校で「バスケットボール教室」を行った。小高中学校はかつてはバスケットボールが盛んで強かったのだが、東日本大震災で生徒が減少しチームを作るのがやっとの状態になってしまった。かつて箱根駅伝で大活躍した今井選手(当時東洋大学)はバスケットボール部の卒業生である。今回は3年生を含めて男女15人という人数だった。しかもミニバスケットボール経験者はゼロ。

ワンハンドシュートやドリブルなどのファンダメンタルをテーマに10時から15時まで指導した。ミニバスケットをやってこなかったせいか私の基本だけのクリニックでも熱心に取り組んでくれた。特に3年生のある選手は「高校に行ってもバスケットボールを続けるから今日は基本をしっかりとやろう」とチームメートに語っているのを耳にした。会津地区の中学3年生は「高校受験に影響する」ということで、このような講習会にはほとんど参加しないので、小高中の3年生の心意気に感心した。

今回の講習会を企画してくれたのは小高中学校の堀川校長先生だった。彼は私が最初に赴任した原町高校の体育の授業での教え子だった。バレーボール部の主将を務め、高校卒業後は体育教師を目指し大学に進学した。中学校の教員となり、バレーボールで県大会優勝も成し遂げた名コーチに成長。現在は校長として学校の再建に尽力している。

①選手が将来大きく成長する土台を作る②選手がバスケットボールをすることが楽しいと思う③バスケットボールに関わる人が元気で幸せにいられる④多くの人がバスケットボールを行う。この4つの成果が今回の講習会で達成できただろうか。バスケットボールとは無縁の教え子が私を呼んでくれたことに感謝と感動を携えながら、まだ除染土を囲ったビニールシートが残る風景を横目にしながら会津へ帰ってきた。

【ミニバスケットボール優勝大会会津地区予選】24日(土)25日(日)はミニバスケットボールの試合を観戦した。クリニックや協会主催のアスリート教室で関わるチームや子ども達のプレイを楽しく観戦することができた。その中でも注目は謹教男子チームであった。坂下ミニバスチームの次に数多くの関わりのあるチームだから。バスケットボールが大好きな子どもたちと研究熱心なコーチや保護者がたくさんいる。蛇足だが私の二人の息子も謹教ミニバス出身である。

この謹教が最後の大会で見事に優勝を成し遂げた。準決勝で今まで優勝をしていた塩川ミニバスを相手に、最後の最後で追い上げ延長に持ち込み大逆転勝利。ミニのレベルを超越した見事なゲーム展開だった。その流れで決勝は何なく勝利し悲願の優勝を達成した。

なかなか勝てなくて苦しんでいる時期が長かったので、選手はもちろんチームスタッフは何ほどうれしかただろう。歓喜の涙を流すことができる人生ほど幸せなことはない。

「強いチームが勝つのではなく、勝ったチームが強いのだ」ということをまざまざと見せつけた謹教ミニバスだった。